

出題分析		
試験時間 80 分	配点 100 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]	
<p><b>【概評】</b></p> <p>例年通りマークシート形式と記述式を併用した出題であったが、昨年復活した大問IVが再び消滅し、2023年・2024年と同様の大問3題の構成に戻った。設問の総数は昨年と同程度である。どの大問も科学系、医療系の専門的な内容の文章が出題されている。80分という試験時間で英文の内容を満遍なく理解するのは困難であるが、設問の難易度は概してそれほど高くない。パラグラフごとの大意を把握しながら要領よく読み進め、素早く設問を処理していく力が求められている。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (科学者規範の理想と現実) ○行数：78行 (昨年：53行)	空所補充問題が4問、内容一致問題が4問、記述式問題が1問という構成。文章の語彙レベルがやや高く、一読しただけでは内容を正確に理解するのが難しいところもあるが、設問の選択肢に紛らわしいものはないので、落ち着いて読めば正解にたどり着ける。記述式問題も標準的な難易度である。	標準
II	長文読解問題 (女性科学者が受けた研究不正行為) ○行数：104行 (昨年：83行)	空所補充問題が1問、内容一致問題が8問、記述式問題が3問(うち1問は語句整序)という構成。科学史に基づいた文章で、内容が具体的のため読みやすいが、登場人物が多いので混同しないよう注意が必要である。Q16は紛らわしい選択肢が含まれている。語句整序問題は昨年より解きやすい。その他の記述式問題も特に難しいところはなかった。	標準
III	長文読解問題 (女性小児科医の苦労と希望) ○行数：58行 (昨年：116行)	空所補充問題が5問、内容(不)一致問題が7問という構成。筆者自身の体験をもとに書かれた文章で、3つの大問の中では最も読みやすい。選択肢も特に紛らわしいものはないが、Q29は本文の内容と「一致しないもの」を選ぶ点に注意が必要である。	標準

**合格のための学習法**

慶應義塾大薬学部の入試問題の英文は、1000 語近い分量の長文が 3 題出題されることが特徴である。時間内に解答するため、日頃から読解速度向上に努める必要があるだろう。また内容は例年、自然科学や医療に関連するものが多い。日頃から理系の内容の長文に親しみ、語彙と背景知識を身につけておくことが望まれる。